

かがやき

<http://www.hosp.tohoku-mpu.ac.jp/>

病院広報誌

Vol.42

2020 秋号

呼吸器外科

「気胸センター」開設しました

産婦人科

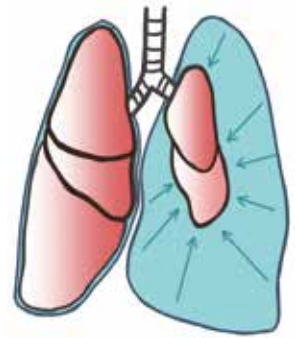
「分娩」を再開しています

ご自由にお持ちください
TAKE FREE

「気胸センター」開設しました

当科ではこれまでに外科領域だけでなく呼吸器疾患全般の診療にあたってきました。その中でも気胸については年間100例以上、過去9年間に約1,000例と全国屈指の治療実績があります。その豊富な治療経験と専門性を活かし、今回「気胸センター」を開設することに致しました。

当センターでは自然気胸の再発率の高さを考慮し、初回発症時より手術をお勧めしております。各部署と協力の下、入院後早期の手術が可能となっており、その結果、再発率の低減と早期社会復帰が実現しています。またほぼ全症例が鏡視下手術ですので、低侵襲性・整容性についても考慮した治療内容になっています。



■ 当センターでの治療疾患

原発性自然気胸

再発予防が治療の中心

原発性自然気胸の治療で最も大事なことは再発予防です。本疾患は進学や就職を迎える年代に好発するのが特徴です。そのため再発予防は当然ながら、早期の社会復帰も重要となります。当センターでは初回発症時から積極的に手術(鏡視下)を行うことで、再発率の低減(再発率:約4%)と早期社会復帰(術後在院日数:平均2日)を実現しています。

肺に基礎疾患を持たない、10代後半~20代の若い男性に多い。
肺尖部にできたブラ・ブレブ(肺嚢胞)の破裂が主な要因。



続発性自然気胸

難治性の気漏遷延をどう止めるか、集学的治療が必要

高齢男性に多い続発性気胸の多くは難治性で呼吸器以外の基礎疾患を持つ症例もあるため、手術だけでなく癒着療法や気管支鏡治療(EWSを用いた気管支充填術)の併用さらには呼吸リハビリなど集学的に治療を行います。

月経随伴性気胸やLAM、BHD症候群などの女性に多くみられる気胸は手術で診断をつけ、術後に他科と協力し全身治療を行います。



肺気腫、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、間質性肺炎などの呼吸器疾患を背景に起こる。高齢者男性に多い。

外傷性気胸

交通事故、転落、転倒などの外傷を契機に起こる気胸で、血胸を伴うこともある。

特殊な気胸

月経随伴性気胸、リンパ脈管筋腫症(LAM)、遺伝性嚢胞性肺疾患(Birt-Hogg-Dube症候群)。

気胸に関してお困りの際は遠慮なくご相談ください。

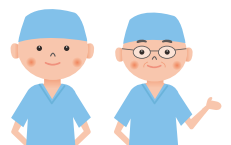
診療日：毎週月曜 (ご連絡頂ければ、予約なしでも診療致します。)

お急ぎの場合は別の曜日でも対応致しますので、ご連絡ください。

東北医科薬科大学病院 呼吸器外科 (気胸センター)

TEL: 022-259-1221 FAX: 022-259-1232

診療科長 兼 医学部外科学
第2主任教授 田畑 俊治
呼吸器外科 野々村 遼



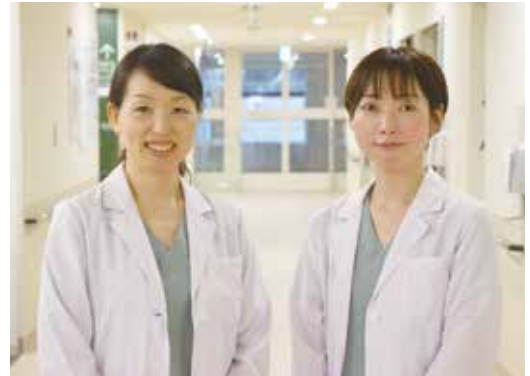
「分娩」を再開しています

産婦人科に女性医師が入职しました

令和2(2020)4月に東北医科薬科大学に女性医師2名(写真)が赴任し、産婦人科診療に携わっています。

当院では令和元年(2019年)11月から分娩が再開し、現在15名の助産師と共に診療を行っています。分娩の再開から今年8月までに52名の方が無事に産出されました。大学病院であることから、内科疾患や精神科疾患などの基礎疾患合併の方も多く、それぞれの主治医の先生方と協力し無事に産出を迎えることができるよう取り組んでいます。

現在、当院で分娩が可能な週数が妊娠35週以降となるため、妊娠35週未満での分娩が見込まれる方や胎児の精密検査が必要な方などに関しては近隣の分娩施設のご紹介をさせて頂き、安全に産出して頂けるよう体制を整えています。



産婦人科
松澤 由記子(左)、村岡 由真(右)

当院の健診や分娩について

当院の健診は医師外来と助産師外来があります。医師外来では胎児超音波検査により胎児の発育を確認し、助産師外来では主に妊娠期間中の生活などの保健指導を行っています。



特別個室 (LDR)



5N病棟 母児同室となる個室



また、分娩後は入院中に一度、お祝いの気持ちを込めて『お祝い膳』を提供させて頂いています。楽しみの一つとして召し上がって頂ければ幸いです。

このご時世の中、母親学級や立ち合い分娩などが困難となり患者さんやご家族にはご心配やご迷惑をおかけしています。状況が整い次第、速やかに再開させて頂きますので、それまでご理解とご協力をくださいますようお願いいたします。

皆様に安心して産出に臨んでいただけるよう産婦人科医局員、スタッフ一丸となって、日々取り組んでおります。今後ともよろしくお願いたします。

分娩はLDRという特別個室で行っています。ここでは陣痛(Labor)から分娩(Delivery)、回復(Recovery)まで移動せずに同じ部屋の同じベッドで過ごすことができます。

分娩後は母児同室のできる個室で過ごして頂きます。お母さんの体調に合わせてお子さんは新生児室でのお預かりも可能になっていますので、分娩後は無理のない範囲でお子さんと一緒にお過ごし頂きたいと思っております。さらに、産まれたお子さんは毎日小児科医師が新生児回診を行い、お子さんの状態について連携して診療にあたっています。



当院のホームページも
ご参考ください!





INFORMATION

当院での企画や行事、最新情報をお伝えいたします！



「東北医科薬科大学 共用棟」が完成し、検査機能が拡張しました！

令和2(2020)年6月5日(金)の午前、当院の近藤丘病院長、本学の福田寛医学部長をはじめ、建設工事関係者の皆様にご出席いただき、引渡式を執り行いました。

「東北医科薬科大学 共用棟」は、その名の通り当院と本学の多様な用途で使用される建物です。中でも特筆すべきは、検査室の機能移転です。共用棟には、検体検査室(生化学・免疫検査、血液検査)、細菌検査室、遺伝子検査室、等が設けられました。本館で現在使用している検査室は、一般検査、輸血検査と時間外対応の緊急検査室として稼働する予定です。

検査機能の拡張に伴い、患者さんに対してより迅速で正確な検査報告が行えるよう努めて参ります。

採血 心電図 超音波 等、患者さんは病院本館で各種検査を受けます

【共用棟の新検査室】
検体検査
●生化学・免疫検査
●血液検査
●細菌検査

臨床検査技師が検体を分析します

10月は「臓器移植普及推進月間」です「いのちへの優しさとおもいやり」

臓器移植は、臓器の機能が低下し、移植によってのみ、その回復が見込まれる人に対して行う医療で、臓器提供者はもとより、広く社会の理解と支援があって成り立つ医療です。

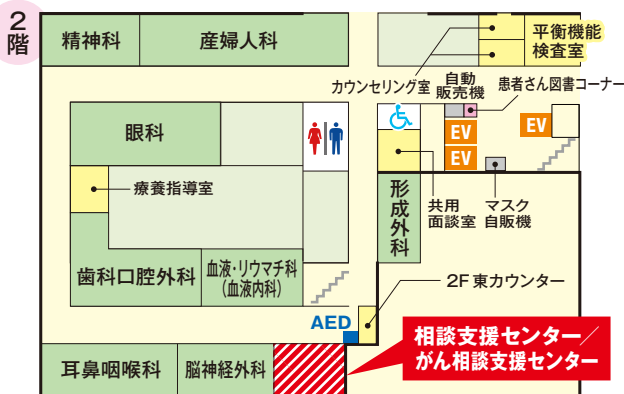
このような移植医療の適正な実施に資することを目的として、「臓器の移植に関する法律」が平成9(1997)年10月に施行され、一定の実績を積み重ねてきていますが、平成22(2010)年の改正法施行後においても臓器提供事例は、顕著な増加を示していません。

今後、臓器移植の一層の定着・推進を図るためには、より多くの方々に移植医療に対する理解を深め、臓器提供に関する意思表示をしていただくことが極めて重要であることから、「臓器移植普及推進月間」を設け、臓器移植に対する理解と協力のための普及啓発を行っています。



相談支援センター／がん相談支援センター

当院では、医療費などの経済的なことや治療上のことなど、病気に関わるご不安やお悩みを少しでも和らげられるよう、相談窓口を設置しております。どこに相談したらいいのか分からないとお困りの際には、お気軽に下記までご相談ください。



◆日時：月～金曜日(祝日、年末年始を除く)
8:30～17:15
◆TEL：022-259-1221(代表)

ケータイ・スマホの方はこちらからもアクセス!



医学部生臨床実習ご協力のお願い

東北医科薬科大学病院および若林病院では、令和元年(2019年)10月より、本学医学部4年生による臨床実習が始まりました。

医学生は診療チーム・主治医の一員となり、指導医と一緒に診療に参加します。

医学生が診療行為を行う際には、指導医から患者さんに「同意書」の記載をお願いする場合がございます。

指導医は、患者さんの安心・安全を確保しつつ学生の指導を行うとともに、最善の医療を提供できるように、より一層努めてまいりますので、この臨床実習へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

アンケートご協力のお願い

今後の「かがやき」制作の参考にさせていただきたくアンケートを実施しております。お手持ちのケータイ・スマホから右側のQRコードを読み込み、回答フォームに入力をお願いします。

